

●19 世紀前半ロシアの代表的な歴史家、文学者ポゴージンの初めての歴史学・言語文学研究著作「全集」の刊行開始／ロシア史、ロシア文学研究の大きな「空隙」を埋める文化事業

ミハイル・ポゴージン

歴史・言語文学研究著作全集 全12巻

第1巻（1820～1828 年の雑誌掲載の初期論文集）

サンクトペテルブルグ、「ロストーク」社、2025 年刊、675 頁

Погодин М.П. – Полное собрание сочинений историко-филологических трудов. В 12 т. Т.1.

Общ.ред.: И.В.Логвинова, К.В.Ратников: вступ.ст. А.А.Ширинянц.

СПб., <Росток>. 2025., 675 с. ISBN9785946684323 (R279175-8565) T.1 hard ¥21,670.

◎続巻の継続ご予約をおすすめいたします。

■本書(全12巻)は「19 世紀前半ロシアの最大の歴史家」と評され、文芸評論家・小説家、ジャーナリスト、雑誌発行人、古写本蒐集家、翻訳家(ゲーテ、シラーなど)としても活躍したモスクワ大学教授ミハイル・ポゴージン(1800-1875)執筆の歴史、言語・文学研究のすべてを収録する著作集です。これはロシア出版史上初めての試みです。

■第1巻には、ポゴージンが1820～1828 年刊の雑誌に掲載したロシア史、ロシア文学に関する論文を集大成しました。掲載雑誌は「ヨーロッパ報知」、「祖国雑記」、「祖国の子」、「モスクワ通報」などです(ポゴージン自身は1841～1856 年の雑誌「モスクワ人」発行人としても有名)。

■ソ連時代はそのスラヴ派的、汎スラヴ主義的傾向のため出版を忌避され、ソ連崩壊以降は近年になってようやく『モンゴルの軛以前の古ルーシ史』(全2巻)、『ピョートル大帝の生涯の最初の17年』などが出版されました。しかし当時の雑誌に掲載された論文類など膨大な学術遺産は未発表のまま残されていました。そこで、スラヴ派の K.アクサーコフ(全10巻)、I.アクサーコフ(全12巻)、ホミャコフ(全12巻)、キレーエフスキー(全3巻)、サマーリン(全5巻)などの著作集を刊行してきたペテルブルグの出版社「ロストーク(萌芽)」社から、今回、同じくスラヴ派的傾向のポゴージンの著作集が上梓されるに至ったわけです。(ポゴージンはピョートル大帝の改革を評価しその点はスラヴ派とは異なります)。

■監修者のイリーナ・ログヴィノヴァはシュニツケ記念モスクワ音楽大学「哲学、歴史、文化・芸術理論講座」准教授・文学准博士で、今回のポゴージン著作集出版計画への助成金をロシア基礎研究基金に申請し、2019 年から本書の準備作業を率いた中心的人物です。もう一人の監修者コンスタンチン・ラトニコフはログヴィノヴァと協力して準備を進めてきた歴史家で、ロシア・ジャーナリズム史の専門家です。また、第1巻の序論を執筆したアレクサンドル・シリニャンツはモスクワ大学政治学部教授の政治学者で、19～20世紀初めのロシア社会政治思想史の専門家です。

